

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月9日

【評価実施概要】

事業所番号	0390800229		
法人名	社会福祉法人とおの松寿会		
事業所名	グループホーム長寿庵		
所在地	〒028-0521岩手県遠野市材木町2-22 (電話) 0198-63-1428		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年3月3日	評価確定日	平成20年4月9日

【情報提供票より】(平成20年2月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 5 月 10 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	21 人	常勤 21人, 非常勤 人, 常勤換算	8.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	2階建ての 階 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,000 円	その他の経費(月額)	無	その他実費負担 円
敷金	有(円)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無		有/無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 950 円			

(4) 利用者の概要(2月18日現在)

利用者人数	9 名	男性 名	女性 9 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名
要介護3	名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 70.7 歳	最低 72 歳	最高 89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川上医院、六角牛病院、守口医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、社会福祉法人とおの松寿会の運営する事業所の1つで、JR釜石線・遠野駅から徒歩7分ほどのところにあり、併設して小規模多機能型居宅介護事業所が設置されている。隣接して医院や一般住宅、商業施設も多くあり、駅や商店街にも近く、買い物や散歩等を通して地域との交流も図られている。地域への説明会を開き視察の受け入れなど、地域理解に努めている。また、ホーム・職員の熱い思いの「ここだからできること」をモットーに、利用者・家族の願いに応える職員の暖かい見守りを得ながら、利用者はそれぞれ出来ることを通して支えあって暮らしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 平成19年5月開設、はじめての外部評価である。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 昨年9月からスケジュールを定め毎月話し合いを行い、全職員が評価の意義を考え、深め合い、意見を出し合って、自己評価に取り組んでいる。この評価のプロセスを通して、ケアの心構え・重要性など数多く職員の気づきが得られている。今後は、外部評価の結果を活用し、全職員の勉強会を行い、課題等の改善に努めることとしている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、概ね、2ヶ月に1回開催されており、主なテーマは、ホームの運営状況等の報告、委員及び地域からの要望、ホームから地域への要望、意見交換となっている。また、避難訓練に委員参加を得て、非常時の対応を見て貰ったり、委員から夜間体制のあり方への意見等が出されるなど、有意義な会議となっている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月発行する「遠野長寿たより」で、利用者の活動状況等をお知らせするほか、暮らしぶりや健康状況は、2ヶ月に1回の「おたより」や家族等の面会時にお知らせをしている。利用者の状態変化は、随時、家族と連絡を取り合っている。家族の意見、要望等については「要望等受付用紙」を家族に配布し意見を求めている。「職員の顔が分からない」との意見があり、すぐに、「おたより」でお知らせするなど改善し、こまめに対応している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自治会に加入して、回覧板を回付するほか、地域交流会を開催するなどして、地域の方々との交流を図っている。今後は、ゴミ拾い等、地域活動や地域行事に、より積極的に参加し交流を深めることとしている。

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「1.地域の一人として地域に貢献する。2地域に開かれ地域に信頼される。3.利用者の…自立した生活を…支援する。4.常に…創意工夫をして行動する。5.対人業務を通じて…人間として成長する場…を創出する。」という法人共通の理念を基にして運営しており、グループホーム独自の理念は定めていない。	○	地域密着型のグループホーム長寿庵の目指す独自の理念を職員等でつくり、それにそったサービス等の実践、具現化に期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念は、広報やホームページに掲載、ホーム内に掲示しているが、事業所としては、十分な共有が図られていないとしている。なお、認知症ケアの取り組み等の心構えについては日常の申し送り時に話している。	○	現行の法人理念、或いは今後、検討する長寿庵独自の理念も含め、理念を漠然として捉えることなく、現場で具現化できるようにするため、職員による意見交換会や全体会議で「共有」されることを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入して、回覧板を回付するほか、地域交流会を開催するなどして、地域の方々との交流を図っている。今後は、ゴミ拾い等、職員を含め、地域活動や地域行事に、より積極的に参加するなどして、その交流を深めることとしている。	○	運営推進会議の場を通じて、或いは委員の協力を得て、地域行事への参加を含め、地域理解と地域交流を深める方を模索されることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に取り組むため、スケジュールを定め、毎月1回話し合いを行い、評価の意義を考え、意見を出し合い取りまとめている。この評価のプロセスを通して、ケアの心構え・重要性など数多く職員の気づきを得られている。今後は、外部評価の結果を得て、全職員の勉強会を通して、課題等の改善に取り組むこととしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、概ね、2ヶ月に1回開催されており、主なテーマは、ホームの運営状況等の報告、委員及び地域からの要望、ホームから地域への要望、意見交換となっている。また、避難訓練に委員参加を得て、非常時の対応を見て貰ったり、委員から夜間体制のあり方への意見等が出されるなど、有意義な会議となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議や運営推進会議の際に、情報交換を行うほか、たびたびの市担当職員の来訪があり、また重要な相談については、出向くなど、相互の往来を通して連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行する「遠野長寿だより」で、利用者の活動状況等をお知らせするほか、暮らしぶりや健康状況の日ごろの様子については、2ヶ月に1回の「おたより」(写真と職員の手書きメモ)や家族等の面会の際に、お知らせをしている。利用者の状態変化時などは、随時、家族と連絡を取り合っている。金銭の預かりはない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に苦情等を受ける窓口を設置するほか、「要望等受付用紙」を家族に配布し意見を求めている。「職員の顔が分からない」との意見があり、すぐに、「おたより」でお知らせするなど改善し、こまめに対応している。また、家族懇談会を開催し意見等をいただく工夫をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所後、間もないことから異動等はないが、今後、異動等があった場合には、新任の職員について、しっかりと引継ぎ、カバーしあう体制をつくるなどして、利用者の安心・安定した生活に支障がないよう、可能な限り努めたいとしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、積極的に派遣するほか、資格取得など自己啓発への支援をしている。法人内の症例発表会にも参加している。なお、当ホームの特徴として、隣接医療機関の協力による「利用者の病状とケアの姿勢」に係る勉強会を実施しており、今後は、終末期の取り組みに関する勉強会など、より多くの機会を設けたいとしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会(岩手県、ブロック)の定例会や他のホームとの交換研修、地域ケア会議などに参加して、職員の交流、資質向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新たな利用に際しては、利用者・家族のホーム見学や体験利用により、思いや希望を話し合ったり、ホームの雰囲気や職員に馴染んでいただいている。利用開始後は、利用者の不安軽減や解消のため、家族等の来訪を得るなどの工夫もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事(準備から配膳、後片付け等)の場面で調理方法や味付けなど、その技術はもとより、利用者のこれまでの人生経験などで教わることも数多く(干し柿作り、縫い物など)あるとして、人生の先輩後輩、ともに学び、支えあひながら生活する関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時のアセスメント、また、日々のかかわりの中での会話や表情から思いや意向を把握している。把握方法は、利用者の日常生活の中での気づきをセンター方式の活用により随時記入するほか、カンファレンスで職員の共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事前のアセスメントや本人家族の意向、担当者の意見を踏まえた原案をもとに、全職員で話し合い(カンファレンス)、計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	開設1年未満であるため利用者の経過変化を把握中であるが、状態の変化が認められる利用者については、家族と話し合い、又カンファレンスや、モニタリングシートで評価を行い必要な見直しをしている。なお、今後は、適時・定期的な計画の見直しを行い、「職員みんなで作るケアプラン」の実現を図ることとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の都合や希望・要望に応じて通院や買い物、葬儀出席や美容院へ出かける支援、災害時の宿泊などに柔軟かつ臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する主治医となっている。通院は家族の付き添いを原則としているが、遠方、突発的受診等で家族同行が難しい場合は職員が通院支援している。また、往診を必要とする利用者には家族及び医師との連携対応をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取りの指針」を整備し、医療連携体制加算の認定を受けている。現在、対象となる利用者がいないことから、職員間で対応等のイメージは必ずしも共有されていないとしている。	○	重度化及び終末期に対する職員間の疑問や不安があるとされているが、今後、対応の重要性が増すものと考えられることから、隣接医療機関の支援、協力を得ながら、具体的な対応のあり方等の研修を行うと共に、職員の共有に期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保は、日常の対応の習慣的な言葉遣いや態度に気をつけ、注意しあっているが、開設間もない事業所でもあり、さらに具体的に確認することが大切である。なお、個人情報については、見えない場所、鍵のかかる場所に保管している。	○	プライバシーの確保は、自尊心を傷つけない環境への配慮(羞恥心など)や、言葉遣い、接遇などの中で尊厳を守ることなどであるが、これは日常業務において意識的に取り組むことが大切であり、職員間で共通理解を深めることを期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるものの、起床や食事の時間、買い物や散歩、入浴の時間など、その日の、利用者一人ひとりの気分や体調をみながら、ペースに合わせて対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、特養ホームの栄養士がつくったメニューを参考にしながら作り、食材を買い、調理、味付け、配膳、片付けなど、得意な場面でそれぞれ利用者との協働の下、食事も職員とともに楽しく摂っている。なお、3月3日節句の訪問であったが、昼食は、ちらし寿司で殆どの利用者は残さず食べていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日ごとに、利用者の希望やリズム(毎晩入浴あり)で入浴できるようにしている。同性対応で入浴介助を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事づくり(味付けなど)や雑巾縫い、洗濯物たたみなど、一人ひとりの得意なこと好きなことで役割意識をもって貰うほか、ドライブや買い物などで楽しみ気晴らしをしている。今後は、声がけを多くしたり、学習療法を取り入れるなどして、利用者に、より意欲が出るような工夫をしていきたいとしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や希望、天候等を見ながら、買い物や周辺の散歩などに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室とも鍵はかけないことを原則としている。グループホームは、2階にあるため外に出かけたりする利用者は少ない。なお、外出する利用者があるときは、1階の小規模多機能型居宅介護事業所の職員が見守りをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を実施しているが、地域の訓練協力を得るまでにいたっていない。なお、年度内に夜間想定訓練を実施する予定である。	○	運営推進会議で各委員の意見を聞いて、地域住民の支援協力、火災以外の訓練などの方策について地域の参加協力を得られる取り組みを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や栄養の摂取量については、毎日、記録しているが、特に水分等の管理が必要な利用者はいない。また食事については利用者の好みや状況に応じて、硬さや大きさなどについても配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、障子越しに柔らかい日差しが差し込み、食卓やソファ、テレビがあり、また、季節の花が飾られ居心地良くつくりられている。そのスペースで、ひな祭りやお茶会など、季節折々の行事を行うほか、まな板の音、調理の匂いが漂うように、リビングと台所が繋がって配置され、家庭的雰囲気づくりの工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の部屋に置いていた整理筆筒や位牌、可愛いがっていた金魚など、思い思いに持ち込み、好きなところに配置して住まいできるような支援している。		